

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願 2 0 0 5 - 0 6 7 2 4 4
起案日	平成 1 7 年 8 月 2 3 日
特許庁審査官	白石 光男 8 3 0 4 2 L 0 0
特許出願人代理人	恩田 博宣 (外 1 名) 様
適用条文	第 2 9 条第 1 項、第 2 9 条第 2 項

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から 6 0 日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

(理由 A)

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前に日本国内又は外国において、頒布された下記 of 刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明であるから、特許法第 2 9 条第 1 項第 3 号に該当し、特許を受けることができない。

(理由 B)

この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記 of 刊行物に記載された発明又は電気通信回線を通じて公衆に利用可能となった発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第 2 9 条第 2 項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

(請求項 1 に対して)

理由 A 及び 理由 B

引用文献 1 を参照 (【0 0 6 9】～【0 0 7 4】、【図 8】)。

引用文献 1 には、基板 2 a と基板 2 b のいずれか一方に液晶を滴下する手段と、前記基板を真空層内を所定圧力にした後、上下の定盤 9 ・ 1 0 を加圧して貼り合わせる手段と、シール材を紫外線照射により硬化させる手段と、基板を貼り合



わせるときに基板のマーカーの位置整合を確認する手段と、所用の精度で一あわせをする手段とからなる基板の貼り合わせ装置の発明が記載されている。

(請求項 2 に対して)

理由 A 及び 理由 B

引用文献 1 を参照。

検出された位置ずれを解消するためには、基板をずれ方向に移動させるか、ずれ方向と反対方向に移動させるか、の 2 通りが考えられる。そしてそのいずれを選択するかは当業者の適宜選択しうる事項にすぎず、ずれと反対方向にずらすことによる格別な効果もない。

(請求項 3 に対して)

理由 A 及び 理由 B

引用文献 1 を参照。

引用文献 1 には、基板 2 a にシール材 6 を描画や印刷で塗布する旨記載されている (【0069】)。

(請求項 4、6、7 に対して)

理由 B

引用文献 1、2 を参照。

基板の処理装置において、異なる処理を実施する装置の間を搬送装置により処理対象物を搬送することは引用文献 2 に記載されるとおり公知の技術事項である。

したがって、引用文献 1 に記載される基板の貼り合わせ装置において搬送装置を用い請求項 4、6、7 に係る発明をなすことは当業者にとって容易である。

(請求項 5 に対して)

理由B

引用文献1－3を参照。

引用文献2には、基板を薄板状バー52（本願の請求項5に記載される「トレイ」に相当）に載置しガイドロッド53に沿って移動するシリンダユニット54（本願の請求項5に記載される「スライダ」に相当）が記載されている（【0014】、【0015】、【図1】、【図2】）。

また、引用文献3には、2枚の基板の一方を反転させて両基板を貼り合わせる手段（【0088】～【0091】、【図8】）

引用文献等一覧

1. 特開2000-66163号公報 → *disclosed*
2. 特開平11-262720号公報
3. 特開平8-211351号公報

先行技術文献調査結果の記録

調査した分野 IPC第7版

G02F1/1339

G09F9/00、342

この先行技術調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

この拒絶理由通知書の内容、面接希望の問い合わせ先：

特許審査第1部光デバイス 白石 光男

電話 03-3581-1101 内3293